

瀬 建 第 440 号
平 成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 殿

鹿児島県瀬戸内町長 房 克



貴職におかれましては、日頃から道路整備事業に対しご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

国道企第37号でご依頼がありました「今後の道路行政についての意見・提案の提出について」、別紙のとおり提出いたしますので、よろしくお願い致します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

鹿児島県瀬戸内町

国道等大型総合整備事業の計画に当たっては、住民参加型として計画案を早めに説明し、地域の実態にあった防災対策、自然環境も考慮した工法とし他事業(港湾整備、農林整備、公園整備)とも連携し公共用地、産業振興用地、農地開発用地等の用地確保をすることにより、地域の産業おこし活性化につながるような総合計画を立てて進めて行くよう要望します。

地方の道路整備は、道路特定財源が一般財源化されても地方にとっては地域産業振興と公共土木による雇用対策として絶対に必要であり、継続して進めて行くよう強く要望します。

事業計画から事業完了までの期間が長すぎるため、地域によっては人口減少、社会状況の変化等で当初の事業効果が薄れる場合があり、事業を着手したら事業の早期完了を要望します。

○ 現状 国道58号(1路線)の整備については、奄美大島北部の奄美市笠利町から南部の瀬戸内町まで奄美大島を縦貫する島の大動脈として産業振興発展の為に年次的に改良が行われているが、網野子バイパス事業の改良が当初計画より遅れており、又改良計画の無い箇所もある。 主要地方道(2路線)及び一般県道(4路線)の整備については、本町が抱える広域性及び地理的、地勢的特殊条件等で改良整備が遅れている。 町道の整備については、交付金事業、過疎対策事業、辺地対策事業等で整備を進めているが整備率51%低く、特に区画整理を実施していない市街地の道路改良整備はほとんどなされていないのが現状である。	○ 課題 本町は広範囲な行政区域に3離島を抱え地勢的特殊条件のなか集落が点在しているため、地籍調査が進まず用地取得が難しく事業の着手が遅れる場合がある。 離島であり急峻な地形の為、急カーブ、急勾配で事業コストが高い。 町道整備は、路線数153、実延長222kmと長く財政的に非常に厳しい状況にあり、予算確保が難しい。 台風、梅雨時期の集中豪雨により災害に該当しない土砂崩れが多く維持管理費が多岐で苦慮している。
---	--

本町の目指すべき将来像は、世界自然遺産登録を目指している奄美大島にとって自然景観を生かした国道58号、県道、町道の整備を促進し、市街地の道路整備については、下水道事業の実施時にコニヤ21プランに連動して利便性安全性に考慮し、高齢化社会に適応したバリアフリー化も含めた環境整備をすることで、大島海峡を生かし観光とリンクした産業をおこしを促進し、地域の活性化を目指す必要がある。